

## 平成26年度第1回うらわ美術館協議会会議録

1 日 時 平成26年8月27日（水）午後2時00分から午後4時00分

2 場 所 うらわ美術館会議室

3 出席者 市川会長 大久保副会長 倉林委員 小林委員 先崎委員 高橋委員  
久田委員  
森田部長 山崎副館長 森田主幹 酒井主幹 下妻主査（書記）  
\* 小川委員、林委員は都合により欠席

### 4 次 第

開会

副館長挨拶

任命書の交付

生涯学習部長挨拶

議事

- (1) 平成25年度事業報告及び評価について
- (2) 平成27年度事業計画（案）について
- (3) その他

閉会

### 5 議事内容

副館長 それでは、只今より、平成26年度第1回うらわ美術館協議会を開会いたします。うらわ美術館協議会規則第3条の規定により、会長に議事進行をお願いいたします。

議長 よろしくをお願いいたします。本日は、小川委員、林委員が所用により欠席されております。出席状況は、出席が7名、欠席が2名です。うらわ美術館協議会規則第4条による会議成立の要件である委員の過半数を超えておりますので、本会議は成立いたします。次に本会議は原則公開としていますが、傍聴を希望される方はおりません。では、お手元の次第に従い、進行をさせていただきます。

なお、本日の会議は、4時頃を終了予定と考えておりますので、よろしくをお願いいたします。

それでは、議事に入ります。平成25年度事業報告及び評価についての説明を事務局からお願いします。

事務局 （平成25年度事業報告及び評価について説明）

議長 只今の説明について、何か質問等ありましたらお願いいたします。

委員 企画展の入館者数のベストワンが平成20年度の「ぐりとぐら展」で、次が昨年度の「馬場のぼる展」ということですね。1日当たりの平均入館者数が多いのが平成19年度ということですが、何か特別の展覧会があったのでしょうか。

事務局 「ブラティスラヴァ世界絵本原画展」で、その入場者数は10,255人です。

議長 評価の仕組みについて、何かご意見等ございませんか。

議長 総入館者数の大半は貸ギャラリーの入館者ということですか。

事務局 貸館の教育利用に入館されるお客さんは多いです。中でも、合同硬筆展覧会は2日間のみで開催で14,470人の入場がありました。

議長 平成25年度の総入館者数の目標はどのくらいですか。

事務局 企画展1本について、毎回5,000人を目標にしています。貸館のほうは、入館者数ではなくその稼働率（使用率）の目標を75～80パーセントとしていまして、ほぼ目標に達したと評価しています。ちなみに、教育利用の総入場者数は約36,000人でした。

議長 企画展の自己評価はどうだったのでしょうか。

事務局 先ほども申しましたが、企画展は5,000人ということでほぼ目標に達したと評価しています。

議長 他に何かご意見等ございませんか。

委員 夏休み前の終業式の時に子どもたちに美術館や博物館へ行って本物にたくさん触れまじょうと話しました。

馬場展の入場者数が多かったということは納得がいきます。馬場のぼるの絵本が身近である、本物である、親子で楽しめる、子どもにわかる等の条件を満たしているからです。

子どもの時に本物に触れて感性を高めることはとても大切なことです。そういう意味からも、身近なうらわ美術館はさいたま市の子どもたちの感性を高める役割を担っていると思います。

企画の段階から子どもが読んでわかるコメントになっているか、親子で楽しめる内容か等検討に検討を重ねる必要があると思います。

アピールの仕方も、親子で楽しめることをもっと前面に出せばたくさんの方がいらっしゃるのではないのでしょうか。たとえば、1階のエレベーターのところに、親子で楽しみ素敵記念になるワークショップがありますよとか、今日来てよかったねと喜べるワークショップのアプローチがあったらもっと多くの方に来ていただけたと思います。

反省の中に、お子さんがうるさかったので注意したら逆にクレームが多かったとありましたが、現代はお子さんが静かに落ち着いて観るとか、しっとり鑑賞するという経験が少ないので美術館での鑑賞の仕方がわからない。逆に、そういう空間がお子さんにとっても親にとっても大切な空間だ

と思います。でも、しっとりできるほど子ども親も本物の美しさに触れていない時代だと思います。だからこそ、親も子ども楽しめる企画をもっと打ち出していく必要があると思います。

「ぐりとぐら」は誰でも知っていて誰もが行きたいと思いますが、有名なものでなくても観てみたいと思う作家もいますし、絵本だけでなくもいいと思います。さいたま市にはたくさんの画家がいらっしゃいますし、そういう中から掘り起こした企画を打ち出していけばたくさんの方に来ていただけるのではないのでしょうか。

事務局 只今、お話いただきました子どもたちや親子で楽しめる展覧会は夏の企画展を中心に継続的に行っていますし、今後とも、続けていきたいと思えます。また、夏だけに特定しないで子どもや親子や子どもを中心にした地域などいろいろ考えられると思いますが、楽しめる企画を検討したいと思います。

委員 親子で楽しむというやはり土日・祝日だと思います。似たようなワークショップではなく、バリエーションに富んだ楽しめるものを開発していく必要があると思います。参加した時はハードルが低く短時間で出来上がり、しかし、満足感のあるワークショップを切り拓いていくことが今後大切だと思います。

議長 他に何かご意見等ございませんか。

委員 図録の販売数は、どのくらいですか。

事務局 「魯山人展」の場合は、図録の販売冊数は228冊でございます。他の企画展の図録販売数も記載のとおりでございます。

委員 授業展の図録はありますか。

事務局 授業展の図録は作ってございません。

委員 小・中学生も観覧料を支払っているのですか。

事務局 通常の展覧会は小学生以上から徴収しています。夏休み期間の絵本の展覧会については、中学生以下は夏休み期間ということもありまして無料となっています。

委員 無料の方が子どもたちを連れてきやすいと思います。

議長 他はよろしいでしょうか。では、先に進みます。次の議題の平成27年度事業計画案について、説明をお願いします。

事務局 (平成27年度事業計画案について説明)

議長 平成27年度は財政事情等により企画展の本数を4本から3本にし、市展の会期を長くしてそれに当てるとのことですね。

ご意見、ご質問等ございますか。

委員 少し寂しいというのが率直な感想です。こういう機会なのでいろいろな意見があった方がいいと思いますので、少し厳しい意見を言わせてもらいます。

美術館ができて、入館者数が伸びないので教育利用をすすめようという

経緯があったかと思います。確かに子ども一人に対しておじいちゃんやおばあちゃんをはじめ何人もの人が付いてくるので、入館者数は増えます。それは数字を増やすための方策であって、埼玉会館などの貸館とは違い、ここは美術館です。本来の美術館の姿ではないと思います。企画が命だと思います。予算のこともよくわかっていますのであまり厳しいことは言いませんが、たとえば、「魯山人展」の来館者は60～70代の市内の方が多く、「馬場のぼる展」は10代が多いですね。人気のある企画展でも来館者の世代が違います。市の評価ですと厳しい面があると思いますが、館として目標を持ってターゲットをだんだん絞り込んでいけるようにしないと、少ない企画展で人を集めることは難しいと思います。人を集めなければ、美術館としての機能は停止していってしまうと思います。広報の方法と企画の出し方について厳しさを自覚していかないと、これから先美術館の運営も厳しくなっていくという不安がよぎります。

議長

只今のご意見と同じご意見をお持ちの方も少なからずおられると思います。私見ですが、市がこの美術館をどうしていくのかということをもう少し知らせてほしいです。そこがぜんぜん見えてこないのです。その一番大きい点は、この美術館を市民の範囲で捉えるのかもう少し広く市の外まで広げるのか、行政としてある程度中期計画的なものをもつ必要があるかだと思います。

市展を行なうのも一つの考え方でいいと思いますが、行うことに対してもう少しプッシュする体制をつくらないとせっかく行っても目立ちません。アナウンスはお金をかければ遠くまで届きますが、お金もなく限られた人数で行うのは大変な作業です。

私はこの美術館のスタッフの人数ではどこまでできるか危惧を感じますが、せっかくですから皆さん、美術館の現状について思うこと、感じることを出されたらどうでしょう。

委員

私も市民の一人として皆さんと同じ考えかと思いますが、本数が減ったらそれなりにアピールするものを開催しなければならないというのはもったいなのですが、なかなか難しいことだと思います。現在、美術館を外側から見る立場になって一年が過ぎたところですが、今まで学芸員として美術館を内側から見てきましたが、近頃自分のいた美術館を含めて日本の美術館が全体的に心動かされる催しが少ないと感じます。ましてやこの美術館は建築上、ホテルの中にある複合施設なので気づかれにくい。そういう中で、何かガツンと引き寄せられる展覧会を実施するというのは、非常に難しいことだと思います。それには、学芸全員で企画を練りに練り、なおかつ、それを館全体で広報面等多面的なアイデアを出し合って他にない企画案を作成し、それに対して市も必要な予算を付けることだと思います。

委員

具体的な話しをしますと(仮称)「幕末明治の浮世絵探訪」とありますが、浮世絵はいろいろな絡み、たとえば印象派との絡みがありますね。中山道

は宿場町なので浮世絵等がたくさんあると思います。それらを組み合わせる等の工夫をすれば、人を引き付けられるのではないのでしょうか。

委員 先日、埼玉県立近代美術館の「戦後日本住宅伝説」の展覧会に行ってきました。面白かったです。若い人からお年寄りまでいろいろな層の人がたくさん来ていました。

この展覧会のように美術以外の分野を含めて多面的な企画を積極的に打ち出すのもよいと思います。ですので、うらわ美術館の場合、館の基本理念に則しながら方向性や内容を変えて「おやっ」と驚きのあるものを開催するといいいのではないのでしょうか。

事務局 量と質の問題かと思います。外部評価や議員さんの質問は、量を問題にします。当然美術館ですのでただ人数さえ入れればいいということではありませんが、同時に質も確保しなければなりません。先ほどからお金が足りないという話しが出ていますが、有名な画家の絵を展示すればそれなりにお客さんも入り、質も確保できます。そうではなくて、企画で持っていくこともできると思います。アンケートの企画展の入場年齢層と展覧会を知ったきっかけを見ますと、年齢が上がるとポスターや新聞雑誌が多く、若い層はインターネットとあります。そういう傾向をつかむことがまず必要かと思います。次に、タイトルで読むか読まないか決まってしまうのでタイトルのつけ方が大きな課題になると思います。新聞になるべく掲載してもらうように、インターネットでヒットするように工夫する必要があると思います。

たとえば浮世絵の企画展ですと、さいたま市と関連付けるとか興味深い内容を盛り込むとかして、切り口を明確にすることによって違いが出てくると思います。

委員 先ほど図録の販売数のことを質問したのは、つまり図録販売の伸びによる展覧会の評価基準もあるということです。もし、人は入らなくても図録によって美術館の評価を高めるといことです。

委員 私の仲間は、本の関係の方が多いので「本の美術館」としてこの美術館をととても注目しています。秋頃開催の「本のオブジェ展」(\*平成13年度開催「本という美術展」、平成21年度開催「オブジェの方へ展」、平成24年度開催「日本・オブジェ展」)は、仲間に人気がありまして出版関係者も来て下さったことと思います。「ゆかり」とこの「本のアート」の収集方針は壊さないで欲しいと思います。ただ昨今の電子ブックの普及により、この美術館の希少価値が出るのかそれとも衰退していくのか、入館者数にどう反映しているかなど、現在その辺がどうなっているのかいろいろな方の声を伺いたいです。その普及に対して、館としてどう身構えどう工夫し対応しているのかも併せて伺えたらと思います。

事務局 「ゆかり」が収集方針の一つであり、もう一つが「本のアート」であることに間違いございません。「本のアート」の収集方針が他の美術館と比べ

意義深いものであるとのご指摘ですが、そのとおりでこちらもそう認識しています。「本のアート」に関しては、今まで続けてきた以上を目指していきたいと考えています。その中でどういう工夫ができるのか常に考えながら行って参りますが、展示紹介の仕方どうしても条件や制約があり限られてしまいます。たとえば、一冊の本を展示する際中身を全部見せることができません。それではどうするかというと、パソコンで中身を紹介したりしたこともございますが、二次的な紹介の仕方にも限度があり予算上などの問題もあります。可能な工夫はできるだけ行い、「本のアート」に関しては単に継続するのではなくより一層の広がりや奥行きを求めていきたいと考えています。

議長 「ブラティスラヴァ展」は原画展ですね。原画と本と何が違うのかをもっと知ってもらう必要があると思います。普通でしたら、本は図書館にあればいいわけです。ところが、ここは本を展示するということから始まった美術館です。本を展示するとはどういうことなのかを、受け手側がまだあまり教育されていない気がします。本を展示するとなると教育された人手が必要で実はものすごく手間のかかることで、絵を展示することとは違うことを知ってもらう必要があります。その時間をこの美術館の人数ではとても捻出できません。ボランティアをお願いするにしても、その方々を教育する機関が必要になります。本を展示するということは単に本を並べることではないはずで、展示物と鑑賞する人との間のケアがついていかないと、本を展示する美術館として十分な機能を失くなっていくだろうと思います。

昨年「アートが絵本と出会うとき」展も稀有な企画だったと思いますが、入場者が少なくもったいないと思います。もう少し内容が広くアナウンスされれば、もっと入場者数が伸びたと思います。あの入場者数は、美術の側からの人の数だと思います。そうでない人まで呼び込むにはいろいろな手立てを尽くす必要があると思いますが、現在このスタッフだけでは体力的に及ばないのではと思います。アピールしていこうとするなら、人手が必要だと思います。その人手は必ずしも職員である必要はありません。ですがそういう人を取込むためには、1日2日でできるものではありません。そのための教育が必要になってきます。

間口を広げていこうとすると、新たな問題も起こります。入場者が多いとまず駐車場の問題が起こり、学芸員も駆り出されます。学芸員が何で交通整理までしなければならぬのかと疑問を持ってバカバカしいと思ったら、そこでせっかくのいい企画も終わってしまいます。問題が起こったらその場その場で対処していかなければならない中で、この美術館に館長さんが不在という事実は、問題だと思います。今のところ入場者が少ないので成り立っていますが、行列ができたならホテルとの交渉等はどうなるのでしょうか。

- 委員 ボランティアの方はいらっしゃいますか。
- 事務局 ボランティアの方やそういう組織や団体はございません。
- 委員 活用された方がいいと思いますが。
- 事務局 活用の仕方によると思いますが、ボランティアを募ってボランティアとして協力をいただく、あるいは一つの組織としてまとめていくということ自体が、一つの事業になってしまいます。今までも、友の会やボランティアの組織をどのようにするかという議論が何回かありましたが、そのような事情で実現には至っていないのが実情です。
- 委員 ということは、おそらく何のためにボランティアが必要かという明確な事象が館内に出てないということだと思います。
- 議長 ボランティアを教育する必要がありますからね。ボランティアが現場に出て来館者とのインターメディアになってもらうためには美術館との意思疎通も必要です。それ自体が大変な仕事になってしまいます。
- 委員 一般から募集するのが大変なら、推薦はいかがでしょう。
- 議長 自治体の場合は、公募という形をとらざるを得ません。
- 委員 絵本や本や美術を好きな方がたくさんいらっしゃると思います。ただ単に奉仕したいという方が多いと思います。大変な仕事にはなると思いますが。
- 議長 埼玉県立近代美術館には、ボランティアはいますか。
- 委員 常設展示室の解説ボランティアがいます。
- 議長 その方たちが、会場に立つまでにはある程度のトレーニングが必要でしょう。
- 委員 まず公募をし、作文選考を経て面接選考で決定し、その後研修講座を受け、さらに、ガイドボランティア現場を想定した実習をパスしないと活動できません。
- 議長 国の美術館は、そういうことについては一番遅れていました。国には地元がありませんので、県の美術館のほうが先行していました。一般公募して、1年で20人の方をボランティアとして採用する形で始まった時は、講座を半年かけて行ないその後試験をして採用となりました。そのように時間をかけたのに、任期は2年です。他にも希望者が一杯いるからです。そういうことで、ボランティアを育成していくということも大きな事業となってしまいます。
- 委員 ボランティア希望者はそれなりにいるとは思いますが、この美術館には常設コーナーがないのと、本を前面に掲げて展覧会を開催するとなるとなかなか難しいものがあると思います。「本のアート」をテーマにして収集していると思いますが、おそらく、ひとつの文学とかその関連本のみの収集ではなく広い視野でいろいろのものを収集していると思います。美術館ということと「本のアート」の収集ということについてぶれないでいくためには、本のみ収集以外にも広げているその考え方を今後ど

ういう広げ方があるのかを掘り下げれば、もっと広がりが出るだろうし面白いこともできそうな気がします。たとえば、楽譜ですと音楽と結びつきます。今までの本のイメージや解釈をもっと広げてしまうこともいいかもしれません。もちろん電子ブックも含めて集めていきます。現在の電子ブックも単なる通過点でしかありません。いずれどんどん進化していくでしょう。それを集めていくことも必要です。ですから方法によっては、面白い展示に反映できる要素があるのではないのでしょうか。従ってそれだからこそ、この美術館でのボランティア養成の困難さがあるように思われます。

委員 秋に本を掘り下げしてみる展覧会がありました。それがとてもよかったです。本は見るだけでしたら電子ブックでもいいのですが、本の感触が本の楽しみです。その楽しみを表現し、未来に向けての視点や違う観点を取り入れて工夫したら面白い世界がでてくると思いますので、外部の人の力を借りられたら借りてみたらいいと思います。

事務局 只今、とても大切な話しをしていただきました。ボランティアという言葉でいいですと議長からもお話がありましたように、公立の施設としてボランティアを募る上での機会の均等性をどういうふうに確保するのかとか、あるいは募ったボランティアの方にいろいろなことをしていただく上での研修ですとかトレーニングですとか、必要な諸々のことを行なっていかなければなりません。そういうことをどう考えていくのかということも当然出てきます。ボランティアを便利な無償の労働力と捉えてしまうことが往々にしてありがちですが、本来そういうものではないわけですからその位置付けを明確にする必要があります。

今ご指摘があったことはボランティアという言葉を使っただけの話ですが、狭い意味にとどまらないで広く外部との協力を求めていく必要があるだろうということだと思いますと、確かにボランティアという名称や考え方にこだわらないいろいろな協力の仕方があるだろうと思います。

議長が先ほどおっしゃたように、本は非常に手間のかかるものだと思います。たとえば絵画ですと、タイトル・サイズ・技法など調査項目は決まっています。本の場合は、素材といっても紙だけではなく、刷りの技法もオフセットだけでなくいろいろな技法があり、本の制作に携わっている人も装丁家等たくさんの方がいます。調査項目が絵画・彫刻などの美術作品より圧倒的にたくさんあり、それらひとつひとつを調査研究するには膨大な人手、しかも訓練された学芸員や調査員・研究者が必要です。

ボランティアということだけでなく、外部の研究者や専門家と一緒に調査研究していくとか、そういう方たちとある事業の企画を立てるとか、そういう形の広げ方ができないか模索していく必要があると思います。そういう協力体制をつくるための労力や時間について無視できないもの



がありますので、折り合いを図りながらどうすることが可能なのかを検討していかなければならないと感じています。

時間のかかる基礎的調査研究を続け蓄積していかなければ、10年20年後に立ち枯れ状態の木になってしまい取返しのつかないことになりかねません。そんな美術館になってしまってよいものかという議長のご指摘を、深く重く受け止めていかなければいけないという思いで聞いておりました。

議長 先ほど委員さんの言われていたのは、ボランティアというより外部協力者ということですね。

委員 そういう方たちは、金銭的な報酬より面白いことに携われたという喜びを感じるのだと思います。

議長 本は基本的にめくるものだと思います。しかし展示会場で皆さんにめくってもらうわけにはいきませんので、美術作品と同じように開いた状態で展示します。そうではない本の展示方法の知恵の出し方があると思います。本の愛好家たちは本をめくる感覚の魅力を、展示空間の中に活かす術をお持ちだと思います。それも大変な研究であり、実践的な時間と手間が必要だと思います。

議長 うらわ美術館の学芸員は何人ですか。

事務局 事業係は教育普及担当を含め5人です。指導主事である教育普及担当1人は展示会をはじめとした学芸業務に直接携わっていません。学芸員は4人です。

議長 企画能力のある人は4人ということですね。

事務局 はい、そうです。

委員 角度のある新しい視点で切り込む魅力的な企画展を行なうことは、言うは易く行なうは難しです。

議長 他の方、ご意見等ございませんか。

委員 厳しいご意見が多かったですが、現在の企画展を初日に拝見しました。私も本好きだし、絵本好きのメンバーもたくさんいます。「ブラティスラヴァ原画展」など夏の展示会はここの強みだと思います。なかなか見ることのできない貴重なものが多く大変充実していて面白かったという意見が多かったです。夏の有名な絵本の原画展の入場者数が多いということはすごいことだと思いますが、もうひと工夫あるとさらに来場者が伸びると思います。他の展示の入場者数も増えるよう更なる工夫も欲しいと思います。

委員 先ほど公募という話がありましたが私も公募委員で、今から3年前応募してこういう機会をいただきました。はじめ市報で見てマックのパソコンで検索したところ、文字化けして見ることができず情報を得るために大学まで出かけました。私のようにマックを使って見ることのできない方もいらっしゃるのではないかと思います。地図や写真を見る

ことができても住所など文字化けしていたらそこでストップしてしまう  
と思います。パソコンの環境を整えるだけでも、入場者数が違ってくる  
のではないかと思います。

新宿駅の京王の地下モールに、現在開催中の「ボンジュール！フランスの絵本たち」展のポスターが掲示されていました。しかし、1週間後にはもうありませんでした。その掲示の契約がどういうふうになっているかわかりませんが、その撤去の速さにびっくりしました。人の多い新宿駅での掲示は相当のインパクトがあると思いますが、たった1週間を取り外されてしまうと集客には繋がらないと思います。

事務局 ポスターの掲示等については、予算措置を伴う形は行っていませんので、駅貼りなどの有料スペースでの掲示はしていません。京王の新宿地下モールの掲示はご好意により1週間も掲示していただいた特別な例です。

事務局 ホームページの件ですが、マックで見ることができないことを存じませんでした。ホームページはインターネット上に掲示する上で大切なことだと思いますし、見やすさも含めまして美術館の課題として捉えさせていただきます。

議長 他はよろしいでしょうか。

では、3番目のその他について事務局からお願いします。

事務局 その他について特に提案しておりません。もし、委員さんの方からございましたらそれに基づいてと思っております。

委員 27年度の事業案のところで教育普及事業の中でワークショップ関連が出ていますが、この他のワークショップのお考えはありますか。

事務局 今のところございません。

委員 (仮称)「縫いと造形」と関連したワークショップはないでしょうか。

事務局 展覧会の中では通常ギャラリートークを行なうのが一般的で、今のところそれに関わるワークショップの予定はございません。

委員 日本は季節があるので季節ごとのワークショップがあれば楽しいと思ったのですが、展覧会と関連できなければしょうがないとも思います。

議長 他はよろしいですか。

では、時間になりましたので終了します。皆さんには、積極的な発言をいただきありがとうございました。